

令和5年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立聾学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	シンプルで分かりやすい学校評価実施計画が作成されている。校長の時代に沿った改善への意欲は、着実に浸透しつつあるが更なる取組に期待したい。
	2 組織的運営・責任体制	* 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	管理職の意欲が浸透しつつあり、風通しの良い教育環境の構築されつつある。主幹教諭の存在感（専門性の維持、伝承の役割）があった。業務遂行マニュアルの類いが作られており、業務の改善に生かされることを期待したい。
	3 服務監督・危機管理体制	* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時の迅速で適切な対応 * 法令に則った医療的ケア実施体制の整備	事故を防ぐ気づきの共有と迅速な改善が行われており、12月中旬までに73件のヒヤリ・ハット報告があった。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組	地域の企業との連携による学習活動が実施されている。幼児児童生徒の「利他」の志を育む教育活動として意味づけられることを期待する。
	5 センターの機能	* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 * 組織的に取り組む校内体制の整備	特別支援教育のセンターとして校内体制が整備され、巡回相談、教育相談会、乳幼児教育相談、通級指導教室が運営されている。
学習指導	1 授業	* 障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導 * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	「一人3実践」の教師の学び合いの取組により、着実に教育現場の改革がなされている印象を持った。参観した授業では、対話があり、幼児児童生徒と共に学ぶ活動が実施されていた。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	* チェックリスト等に基づく実態把握の実施 * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 * 保護者等と連携した教育支援計画の作成、長期的視点の支援	分かる授業の徹底の取組の一つとして「大分聾スタンダード」による自己チェック、授業公開、授業観察が実施されている。保護者全体会にて運営方針・重点的取組等を説明し、報告していた。
	3 授業研究・授業改善	* 社会のニーズや学校の教育課題等に基づく学校研究への取組 * 計画的な授業研究の実施等による授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	初任者研修、グループ研究が運動するよう工夫し、系統的な言葉の指導の研究が実施されている。言語化されにくい専門性が授業研究で高められている。朝礼前の「朝の手話学習」や聴覚障がい者への合理的配慮についての研修も実施されていた。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握	進路学習会、ワーキングフェアが実施されている。卒業後の「健聴者に囲まれて暮らす生活」のなかで合理的配慮を求める力を教育内容化することが課題として浮かび上がり、保護者対象の進路学習会や懇談が小学部段階から実施されている。
	2 就業体験の機会の確保	* 福祉・労働施策や関係機関の事業等の情報収集の取組 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	過去の情報・資料の蓄積が為されており、就労系の福祉事業所との連携も構築されつつある。更なる強化が望まれる。生徒が、職場見学・実習をするなかで自分に向いている仕事を考えさせるよう指導されている。
	3 職場開拓	* 地域の企業、福祉・労働の関係機関等との密接な連携 * 教職員・保護者が一丸となった職場開拓	ワーキングフェアでの展示品を見学できた。生徒の作品とコメントには力があり、校内で展示するだけでなく、人通りが多い所で展示するなどの工夫が望まれる。
豊かな心・健やかな体の育成	1 社会自立に向けた教育	* 互いの良さを認め合い、豊かな人間関係を形成できる幼児児童生徒を育成 * 卒業後に必要とされる力を踏まえ、各学部段階において適切に指導	情報モラルや電子端末にかかる教育は、現在社会の大きな課題であることから、実情に合った計画的・タイムリーな教育活動が期待される。
	2 生徒指導	* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組	それぞれの年齢に沿った質の高い教育が実践されている印象を持った。保護者や関係機関との連携に、ICTを活用されることを期待する。
	3 教育相談	* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	スクールカウンセラー等と連携されている。ことばときこえの相談が主になっており、教育の専門性が必須になっている。
	4 特別活動	* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組	学校間交流、居住地校交流が実施されている。学校の立地を生かした地域社会との関わりづくりを検討されることを望む。
	5 安全管理・医療的ケア	* 教職員間で迅速に情報共有する体制が確立 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制が整備	緊急時の対応訓練を実施している。保護者との連携し、医療的ケア安全委員会をすすめている。
全般	障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	* 教育活動全般にわたる、障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	校長のリーダーシップの下、ミドルリーダーと問題共有を図りながら、専門性の発展・向上に努めている。子どもたちのコミュニケーション能力の発達を基盤とする学力だけではない社会で生きる力を育てるための教育の在り方を模索し、実践を続けている。今後の新たな教育の創造を期待する。
総合評価	聾学校の歴史と伝統を重んじながら、時代のニーズに合わせて改革しようとする姿勢は評価できる。学部主事・主任にミドルリーダーとしての気づきと共有の働きがあり、常に改善をする組織づくりの要となっている。地域のセンター機能だけでなく、聴覚障がい教育に対応する固有の学校としての存在意義が高いことが理解できた。その重要性ゆえに、教職員の専門性の向上と人材育成は継続しなくてはならず、時代の変化に対応して変革を志向する今後の努力を見守りたい。さらに、自分が「さんのために」「地域の人のために」「社会のために」できることがあるという課題解決力と得意を生かした「利他」の志を育てる教育活動の創出も期待したい。地域に開かれた教育課程となるために地域社会との協働が望まれる。		
校長コメント	<ul style="list-style-type: none"> これまで培ってきた聾学校としてのオリジナリティは大切に継承しつつ、改善点があれば時代の変化に合わせ思い切って変えていく。この意識を全職員に浸透させ、子供や保護者を置き去りにしない教育活動に励んでいきたい。 危機管理体制の構築や安全な学校づくりは学校教育の土台だと考える。それができて初めて子供は安心して教育を受けられるということを常に意識し、日頃から安全教育や防災教育の重要性を子供たちに伝えていきたい。 大分聾スタンダードに基づく「わかる授業の徹底」に努め、専門的指導力の向上及び人材育成を目指した研究・研修体制を構築するとともに、関係機関の人的・物的資源を積極的に活用し、教育活動の活性化を図りたい。 全国的に見ても聾学校は子供の減少が進み、本校も例外ではない。そういった中、本校に課された使命を今一度肝に銘じ、教育相談体制を充実させ巡回相談や通級指導教室に更に重点を置くなど、センター的機能の充実を図り、地域から信頼される学校づくりに励みたい。 		